

監物櫓の復旧

令和3年(2021)9月に石垣の復旧工事が完了した監物櫓では、続けて令和5年(2023)12月にかけて櫓の復旧工事を実施しています。令和4年度(2022年度)から始まる柱や梁の組立に向けて、部材の補修作業が進んでいます。櫓の土台となる石垣は今回の被災で一部沈下した部分もあるため、木土台と石垣の間で高さを調整するための石を設置する作業を行っています。



部材の補修作業(令和4年1月31日)



補修材に付けられた修補年の焼印(令和4年2月18日)



調整石の設置作業(令和4年2月14日)

熊本地震における熊本城の被災状況

平成28年4月16日 1時25分 [本震 M7.3]

熊本城全体の石垣: 973區、約79,000㎡
特別史跡熊本城跡の土地面積: 約512,000㎡

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・影らみ・緩み 517箇所 (うち崩落50箇所、229箇所)	約23,600㎡(全体の29.9%) (うち崩落約8,200㎡(全体の10.3%))
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
便益施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など



『復興熊本城Vol.5長堀編』

書店にて発売中! 平成28年(2016)の熊本地震によって甚大な被害を受けた熊本城の記録を定期的に発行します。
Vol.5では、平成28年熊本地震で被災した長堀の歴史、復旧工事の概要、令和3年度上半期までの復旧の様子などを収録しました。
現在、熊本県内の書店などで発売しています。

熊本県立美術館(本館)

◆印象派との出会いーひろしま美術館コレクション(開催中～6月5日)
モノ、ルノワール、ピサロから日本洋画まで、19～20世紀の絵画・彫刻69点をお楽しみください。
◆美の旅 西洋美術400年ー珠玉の東京富士美術館コレクション(7月16日～9月4日)
ティントレット、ヴァン・ダイク、ゴヤなど、ルネサンス時代～近代の名品82点をご堪能ください。
◆その他上半期の展覧会
◆水・花・緑 くまもとの風景と自然の恵み(開催中～6月12日)
◆黒の魅力 期間限定公開「夏田春草(黒き猫)」(開催中～6月26日)



熊本城ミュージアム

書の特別企画

「肥後六花 ～肥後を彩る 武士のたしなみ～」

期間: 3月19日(土)～5月22日(日)

場所: 城彩苑 熊本城ミュージアム わくわく館

内容: 第38回全国都市緑化くまもつフェア くまもと花とみどりの博覧会にあわせ、江戸時代から栽培されてきた熊本が誇る花々「肥後六花」を紹介します。「肥後六花」は、肥後熊本藩六代藩主堀川重賢公「武士のたしなみ」として藩士たちに奨励したので始まりとされています。この「肥後六花」を紹介する展示パネル、映像の上映のほか、異議団花園による特別舞台を開催。わくわく座オリジナル「肥後六花ポストカード」がもらえるグッズ大会も。わくわく座スタッフが全力で肥後六花をPRする「肥後六花大使&松竹梅」も活動中です!
料金: 入館料(大人300円、子ども(小・中学生)100円)

お得: 共通入園券がオススメです

2館共通入園券(熊本城・わくわく館)→大人850円、子ども(小・中学生)300円
3館共通入園券(熊本城・わくわく館・熊本博物館)→大人1,100円、子ども(小・中学生)400円

熊本中央区二の丸1-1-1 096-288-5600 開館時間と詳細はホームページをご覧ください。

熊本博物館

熊本博物館創立70周年/ KKT熊本県長史上代官40周年記念特別展

世界の大大電展

7月16日～9月4日

1992年、日本で2例目の買電の化石が、熊本で発見されました。世界各国の買電化石からその特異な姿や進化・系統および古生態を紹介し、九州を中心に国内で見つかったいる買電化石についても紹介します。

熊本博物館

熊本博物館

熊本博物館

熊本博物館

熊本博物館

熊本城 ～復興に向けて～

令和4年度 春夏号



※施設の臨時休館や開催を変更する場合がございます。詳細はお出かけ前にご確認ください。

※新型コロナウイルス感染症の影響により公開を変更する場合がございます。最新情報は熊本城特別公開ホームページをご覧ください。

重要文化財平櫓石垣解体

令和3年(2021)9月から令和4年(2022)2月に重要文化財平櫓下の石垣の解体調査を実施しました。令和4年度(2022年度)以降も平櫓復旧に向けた調査をします。今回解体した石垣の積み直しをするのは令和5年度(2023年度)の予定です。



解体中の平櫓

解体調査の結果、出土遺物や石垣背面の状況から昭和29年(1954)の建物解体修理の際に、石垣の一部も修理されていることが明らかになりました。また、石垣背面の状況は一樣ではないことから、江戸時代にも複数回修理されていると考えられます。なお、最も古い江戸時代の石垣の背面には、大きめの栗石を列状に並べ、その間に小さい栗石を詰める状況が観察されました。これは天守閣や飯田丸五階櫓の石垣裏側でも見られた技法です。



1石解体ごとに石同士の間隙や積み方を記録します



解体作業は慎重に進めました



間詰石と呼ばれる小さな石にも番付を貼りません



昭和29年に設置された1mを超える高さのコンクリート基礎



石垣の後ろの構造をよく観察すると、列状に並ぶが見えます

竹の丸五階櫓周辺石材回収

令和3年(2021)10月から令和4年(2022)3月にかけて、竹の丸五階櫓周辺の石材回収工事を行いました。竹の丸は慶長15年(1610)以降に、加藤清正が白川旧流路を埋め立てて造った曲輪で、地震では竹の丸五階櫓台周辺の石垣が大きく崩落しました。ここは「樹形」とよばれるクラックが連続する部分で、複数の石垣が組み合せて造られた、防衛上の要の一つです。崩落石材も複数の石垣面の石材が混ざっており、石材回収作業はこれを丁寧に特定しながら行いました。合計で961石の石材を回収しました。



崩落した石材(令和4年1月)



竹の丸五階櫓からみた特別見学通路(令和4年1月)



栗石回収の様子(令和4年1月)



石材回収完了(令和4年3月)

棒庵坂周辺石材回収

令和3年(2021)10月から令和4年(2022)3月にかけて、棒庵坂周辺の石材回収工事を行いました。棒庵坂は熊本城の北側に位置し、北大手門への入り口です。平成28年熊本地震では、特に加藤神社北側の石垣面が変状・崩落しました。この石垣面は明治22年(1889)金峰山地震でも大規模に被災しており、今回の崩落範囲の大半が積み直した箇所であることが分かりました。石材回収後の崩落法面は被害拡大を防ぐためモルタルを吹き付けて養生しています。回収した石材は空堀内に仮置きしており、今後石材調査等を実施します。



崩落状況(平成28年撮影)



栗石回収作業状況(令和3年11月)



栗石仮置き状況(令和3年11月)



石材回収完了(令和4年3月)